



平成29年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年4月14日

上場会社名 株式会社ヒト・コミュニケーションズ 上場取引所 東
 コード番号 3654 URL <http://hitocom-ir.com/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)安井豊明
 問合せ先責任者 (役職名)社長室長 (氏名)飯島幸一 (TEL) (03)5979-7749
 四半期報告書提出予定日 平成29年4月14日 配当支払開始予定日 平成29年5月12日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年8月期第2四半期の連結業績(平成28年9月1日～平成29年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年8月期第2四半期	15,060	6.9	1,525	0.7	1,486	△2.3	890	△0.3
28年8月期第2四半期	14,086	12.1	1,515	48.7	1,521	48.7	893	56.6

(注) 包括利益 29年8月期第2四半期 897百万円(0.8%) 28年8月期第2四半期 889百万円(56.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年8月期第2四半期	49 74	—
28年8月期第2四半期	49 89	—

(注) 当社は、平成28年2月1日付で、普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。前期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算出しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年8月期第2四半期	11,757	8,860	75.1
28年8月期	11,539	8,088	69.9

(参考) 自己資本 29年8月期第2四半期 8,832百万円 28年8月期 8,066百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年8月期	—	5 75	—	7 00	12 75
29年8月期	—	6 50			
29年8月期(予想)			—	6 50	13 00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年8月期の連結業績予想(平成28年9月1日～平成29年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,270	5.0	2,960	5.6	2,965	5.5	1,740	11.3	97 21

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 6「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年8月期2Q	17,900,000株	28年8月期	17,900,000株
29年8月期2Q	584株	28年8月期	584株
29年8月期2Q	17,899,416株	28年8月期2Q	17,899,416株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(注) 当社は、平成28年2月1日付で、普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。
当該株式分割が前期首に行われたと仮定して発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表の四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 5「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
2. 決算補足説明資料は、作成後当社ホームページに速やかに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
(4) 追加情報	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、アジア新興国等の景気の下振れ懸念はあるものの、政府の経済対策や金融政策等により、雇用・所得環境の改善傾向が継続しており、企業収益も依然として改善傾向にあることから、景気は緩やかな回復基調が継続いたしました。

当社グループが属する営業支援系アウトソーシング業界においては、雇用関連の各種指標の持続的な改善により、小売・サービス分野における人手不足は深刻化している一方で、企業の人材採用意欲は依然旺盛であることから、当社グループが提供する各種人材サービスに対するニーズは引き続き堅調に推移いたしました。

このような環境のもと、当社グループは取扱商材分野を家電、ブロードバンド、モバイル、ストアサービス、観光、コールセンター他の6区分(注)1(注)2に分類しており、従来中心としていた家電分野、ブロードバンド分野、モバイル分野に加え、ストアサービス分野、観光分野、コールセンター他分野の営業強化により、すべての取扱商材分野をバランスよく成長させることでポートフォリオを充実させ、繁閑や商材のライフサイクルによる影響を最小限にとどめて経営基盤の安定を図っております。

家電分野におきましては、理美容家電、健康家電における好調な需要が一服したものの、エアコン等の季節家電、冷蔵庫・洗濯機等の大型家電の販売が堅調に推移したほか、テレビについても4Kテレビ等を中心に高価格帯商品の販売が堅調に推移するなど、消費者との接点を担う販売員に対する需要は底堅く推移しております。

ブロードバンド分野におきましては、平成28年12月末時点の国内のブロードバンドサービスの契約数が1億8,145万件(前年同月比120.0%(注)3)、そのうち平成28年12月末時点のF T T Hアクセスサービス(光ファイバーによる家庭向けのデータ通信サービス)の契約数は2,900万件(前年同月比105.2%(注)3)となっており、当社グループが主たるマーケットとする光回線市場についても契約数の増加が継続している状況であります。また、通信事業者により光回線の卸売が開始されたことにより、既存通信事業者だけでなく新規参入事業者も含めて当該分野における専門性の高い販売員に対する需要は底堅く推移しております。

モバイル分野におきましては、平成28年12月時点の携帯電話契約数は1億6,070万件(前年同月比104.1%(注)4)、BWAアクセスサービス(2.5GHz帯を使用する広帯域移動無線アクセスシステム(WiMAX等)でネットワークに接続するアクセスサービス)の契約数は2,329万件(前年同月比148.5%(注)4)と前年を上回っており、通信料金支出の低減を求める一般消費者ニーズを背景とした格安SIM・格安スマホ等への契約加入の需要も堅調であることから、当該分野における販売支援に対する需要は引き続き高い状況が続いております。

観光分野におきましては、中近東・欧州の情勢不安等による海外旅行の取扱額の減少、大雪等による北海道方面の需要の落ち込みによる国内旅行の取扱額の減少により、平成28年12月分の主要旅行業者の旅行取扱額総額は4,401億円(前年同月比98.3%(注)5)と前年を下回っております。しかしながら、東南アジア諸国のビザ発給要件の緩和や消費税免税制度の拡充等により外国人旅行の取扱額は引き続き増加しており、また訪日外国人旅行者数は平成29年2月度時点で433万人(前年同月比115.7%(注)6)と前年の数値を上回る人数で推移していることから、訪日外国人旅行者に対する通訳ガイド、販売支援、多言語対応等のニーズは引き続き高まっております。

このようなマーケット状況のもと、当社グループは「事業創造企業への脱皮～更なる付加価値企業を目指して～」を合言葉に、アウトソーシングサービスを牽引するリーディングカンパニーとして、クライアントのニーズに成果で応える「成果追求型営業支援」の実践を継続いたしました。

その実践として、既存の家電分野、ブロードバンド分野、モバイル分野、ストアサービス分野の業務運営事務局(注)7の新規提案、収益改善に取り組むとともに、当社の全国拠点網を活用したセールスプロモーション提案の強化を継続いたしました。増加する訪日外国人旅行者への対応力強化につきましては、インバウンドビジネスの専門部署を中心に前連結会計年度に引き続き外国人スタッフの登録者数・就業者数の増加に向けた営業強化、多言語コールセンター、商業施設等における免税カウンターの一括運営受託の提案営業を重点的に実施いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は15,060,919千円(前年同期比6.9%増)となりました。また、営業費用において、過年度におけるスタッフ等の未払給与計上やスタッフ確保のための募集費投下を積極的に行った結果、営業利益は1,525,868千円(前年同期比0.7%増)、経常利益は1,486,251千円(前年同期比2.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は890,304千円(前年同期比0.3%減)となりました。

(スタッフ等の未払給与計上について)

当社は、平成28年12月に労働当局より給与計算システム設定の誤りによる、時間外労働手当の一部に未払いが生じているとの指摘を受けました。直ちに全社的な実態調査を実施したところ、支払賃金のうち一部の未払いが確認されました。これにより平成29年1月中旬に過去2年分(平成26年11月から平成28年10月)の未払賃金等を該当者へ支給いたしました。併せて、平成29年8月期第1四半期決算において、未払賃金等約96百万円を営業費用に計上いたしました。

なお当該事象については、給与計算システムの改修を実施し、既に適正な状況にて運用しております。

今後このような事態を二度と繰り返さぬよう管理体制を改善し、再発防止に努めてまいります。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

(アウトソーシング事業)

アウトソーシング事業におきましては、家電分野、ブロードバンド分野及びモバイル分野を中心とした業務運営事務局の受注に向けた提案及び収益改善を継続するとともに、キャンペーン受注の獲得及びストアサービス分野・コールセンター他分野における営業アウトソーシングの受注強化に取り組みました。

上記取り組みにより、モバイル分野において、前連結会計年度より大手通信事業者から受注した全国の量販店における高速無線通信への加入促進を業務内容とする業務運営事務局の売上高が大幅に増加したほか、家電分野において外資系企業からの受注が増加いたしました。また、インバウンドビジネスの専門部署を中心に、増加する訪日外国人旅行者の取り込みを強化する小売業を中心とする流通各社に対する提案営業活動を強化した結果、首都圏エリアにおいて多言語コールセンター及び免税カウンター運営の案件受注が増加いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は10,605,509千円（前年同期比7.4%増）、営業利益は1,314,108千円（前年同期比4.5%減）となりました。

（人材派遣事業）

人材派遣事業におきましては、家電分野、ストアサービス分野、コールセンター他分野を中心に、幅広い取引先からの案件の新規受注獲得に取り組みました。家電分野におきましては、外資系メーカーを中心に新規案件の受注が増加した他、国内主要メーカーからの常勤稼働の人材派遣案件についても受注が回復いたしました。ストアサービス分野におきましては、大手GMS・食品スーパーにおける人材採用難等に伴う需要拡大に伴い、引き続きレジ業務他幅広い職種での受注が増加いたしました。また、コールセンター他分野におきましては、訪日外国人旅行者向けの人材サービスの受注が増加いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,362,389千円（前年同期比5.7%増）、営業利益は215,321千円（前年同期比52.4%増）となりました。

（その他）

その他におきましては、東日本エリアにおいて販売教育研修の案件を受注したほか、紹介手数料による売上が増加いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は93,019千円（前年同期比2.8%増）、営業利益は5,763千円（前年同期比25.1%減）となりました。

（注） 1 アウトソーシング事業における主要な取扱商材分野とその業務内容は以下のとおりです。

取扱商材分野	業務内容
家電	・デジタル家電（大型薄型テレビ、デジタルレコーダー、タブレット端末等）の販売 ・生活・家事家電（エアコン、冷蔵庫、洗濯機等）の販売
ブロードバンド	・固定通信回線（光回線等）への加入促進業務 ・インターネットサービスプロバイダーへの加入促進業務
モバイル	・携帯電話、高機能携帯端末（スマートフォン等）の販売 ・次世代高速無線通信への加入促進業務
ストアサービス	・生鮮食品やコスメティック・ファッションの販売 ・カードの加入促進業務等
観光	・バスガイド業務 ・展示会、コンベンション、スポーツイベント運営業務 他
コールセンター他	・各種受付コールセンター業務 ・訪日外国人向け多言語コールセンター、免税カウンター ・流通、小売サービスセンター業務 他

2 人材派遣事業における主要な取扱商材分野とその業務内容は以下のとおりです。

取扱商材分野	業務内容
家電	・デジタル家電（大型薄型テレビ、デジタルレコーダー、タブレット端末等）の販売 ・生活・家事家電（エアコン、冷蔵庫、洗濯機等）の販売
ブロードバンド	・通信回線獲得アウトバウンド
モバイル	・携帯電話、高機能携帯端末（スマートフォン等）の販売 ・次世代高速無線通信への加入促進業務
ストアサービス	・生鮮食品やコスメティック・ファッションの販売 ・金融、カードビジネス窓口案内、カード会員の獲得
観光	・国内旅行・海外旅行添乗業務、バスガイド業務 ・展示会、コンベンション、スポーツイベント運営業務 他
コールセンター他	・コールセンター業務 ・品出し、流通バックヤード業務 ・営業事務、貿易事務、経理事務 他

3 （出典）：総務省「電気通信サービスの契約数及びシェアに関する四半期データの公表（平成28年度第3四半期（12月末）」より

4 （出典）：（一社）電気通信事業者協会「事業者別契約数」（平成28年12月）より

5 （出典）：観光庁「主要旅行業者の旅行取扱状況速報」（平成28年12月）より

6 （出典）：日本政府観光局「訪日外客数」（平成29年2月推計値）より

- 7 当社グループは、アウトソーシング事業において販売等のサービス提供を行う際に、クライアントの課題・施策を共有し、解決するために「業務運営事務局（ヒト・コミュニケーションズ事務局）」をクライアントごとに設置しております。当該事務局は、クライアントとの交渉窓口や販売等のサービス提供に関する施策の立案等を行う事務局長の下、各就業現場にてスタッフへの指示命令を行うディレクターを配置し、販売等のサービス提供に精通したスタッフから組成されています。各業務運営事務局は、スタッフの採用、研修制度の構築、販売等のカリキュラムの作成、就業現場のラウンディング（巡回）、クライアントへの販売等のサービス提供状況のフィードバック等、商品の販売、サービス提供に関する一連の業務を行っております。

それによりクライアントは、スタッフの管理負担及び教育負担の軽減が図れ、現場とマーケティング機能を分離することによる効率化等のメリットを享受することができ、クライアントの業績の向上につながっているものと考えております。

なお、当第2四半期連結累計期間における取扱商材分野別の売上高の概況は以下のとおりであります。

(a) 家電

家電分野におきましては、国内外の主要メーカーに対し常勤稼働案件及び商戦期のキャンペーン案件の獲得に向けた営業活動を実施した結果、外資系メーカーを中心に新規案件の受注が好調に推移いたしました。また、国内主要メーカーからの常勤稼働の人材派遣案件についても受注が回復いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,863,920千円（前年同期比2.9%増）となりました。

(b) ブロードバンド

ブロードバンド分野におきましては、既存の業務運営事務局において契約条件の改善に向けた交渉を実施し収益改善に取り組むとともに、全国各地において業務運営事務局の新規獲得に向けた提案営業に注力いたしました。

上記取り組みにより、前連結会計年度より大手通信事業者から受注した全国の量販店におけるブロードバンドサービスの販売支援を業務内容とする業務運営事務局の売上高が増加したほか、代理店を中心に光コラボ関係の新規案件受注が増加いたしました。しかしながら、既存のブロードバンドサービス販売の案件の受注規模の縮小がありました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,983,277千円（前年同期比1.1%減）となりました。

(c) モバイル

モバイル分野におきましては、業務運営事務局の新規受注に向けた提案、商戦期のキャンペーン案件の受注に向けた営業活動を強化いたしました。

その結果、前連結会計年度より大手通信事業者から受注した全国の量販店における高速無線通信への加入促進を業務内容とする業務運営事務局の売上高が大幅に増加したほか、モバイル端末の販売支援を行うラウンダー業務につき、西日本エリアを中心に受注が増加いたしました。また、格安SIMの販売を業務内容とする業務運営事務局の新規受注が売上高の増加に寄与いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,849,814千円（前年同期比23.9%増）となりました。

(d) ストアサービス

ストアサービス分野におきましては、新規顧客に対する営業強化によりサービス取扱商材の拡大を図った結果、大手GMS・食品スーパーにおける人材採用難等に伴う需要拡大に伴い、引き続きレジ業務他幅広い職種での人材派遣案件の受注が増加いたしました。また、新規領域として大手GMSにおけるレジ・販売スタッフ等の採用代行業務の受注が首都圏を中心に拡大したほか、訪日外国人旅行者向けの販売業務の受注が増加いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は964,699千円（前年同期比13.0%増）となりました。

(e) 観光

観光分野におきましては、中近東・欧州の情勢不安等により海外旅行向けの添乗員派遣の伸び悩みが継続したものの、当社グループ拠点網を活用した全国的な営業活動の強化、グループ各社間でのスタッフ共有等の事業シナジーにより、スポーツイベント運営における案件受注が好調に推移いたしました。また、連結子会社の受注も好調に推移しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,689,931千円（前年同期比6.8%増）となりました。

(f) コールセンター他

コールセンター他分野におきましては、増加する訪日外国人旅行者の取り込みを強化する流通各社に対し、前連結会計年度に引き続き提案営業活動を強化した結果、首都圏エリアにおいて多言語コールセンター及び免税カウンター運営の案件受注が増加したほか、空港関連事業、外国人人材サービスにおける受注も拡大いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,709,275千円（前年同期比14.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産の残高は、前連結会計年度末に比較して217,434千円増加して、11,757,204千円(前連結会計年度末比1.9%増)となりました。

流動資産の残高は、前連結会計年度末に比較して80,935千円増加して、8,788,497千円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加342,052千円、前払費用の増加91,975千円等がありましたが、売掛金の減少368,523千円等があったことによるものであります。

また、固定資産の残高は、前連結会計年度末に比較して136,499千円増加して、2,968,707千円となりました。主な要因は、投資有価証券の増加201,279千円等がありましたが、のれんの減少23,861千円等があったことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債の残高は、前連結会計年度末に比較して554,597千円減少して、2,896,594千円(前連結会計年度末比16.1%減)となりました。

流動負債の残高は、前連結会計年度末に比較して554,277千円減少して、2,720,017千円となりました。主な要因は、未払金の減少240,607千円、短期借入金の減少100,000千円、未払法人税等の減少91,194千円等があったことによるものであります。

また、固定負債の残高は、前連結会計年度末に比較して320千円減少して、176,577千円となりました。主な要因は、退職給付に係る負債の増加1,253千円等がありましたが、長期前受金の減少2,462千円等があったことによるものであります。なお、長期前受金は、四半期連結貸借対照表上、その他に含め表示しております。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産の残高は、前連結会計年度末に比較して772,032千円増加して、8,860,610千円(前連結会計年度末比9.5%増)となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加890,304千円がありましたが、剰余金の配当による利益剰余金の減少125,295千円等があったことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の四半期末残高は、前年同期に比較して1,157,889千円増加して、5,252,956千円(前年同期比28.3%増)となりました。当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は814,135千円(前年同期は242,598千円の収入)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益1,486,251千円等がありましたが、営業債務の減少214,872千円、法人税等の支払704,515千円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、支出した資金は246,815千円(前年同期は32,601千円の収入)となりました。これは主に投資有価証券の取得による支出200,000千円、関係会社貸付けによる支出26,000千円等があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、支出した資金は225,267千円(前年同期は102,954千円の支出)となりました。これは短期借入金の純減額100,000千円、配当金の支払による支出125,267千円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年8月期の連結業績予想につきましては、平成28年10月11日公表の数値に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,910,903	5,252,956
売掛金	3,600,828	3,232,305
前払費用	58,309	150,284
繰延税金資産	118,614	119,062
その他	18,904	33,887
流動資産合計	8,707,562	8,788,497
固定資産		
有形固定資産		
建物	828,777	835,069
減価償却累計額	△226,344	△244,983
建物(純額)	602,433	590,085
工具、器具及び備品	96,530	97,804
減価償却累計額	△79,897	△83,558
工具、器具及び備品(純額)	16,633	14,246
土地	1,272,197	1,272,197
有形固定資産合計	1,891,264	1,876,529
無形固定資産		
のれん	315,606	291,745
ソフトウェア	25,979	22,993
その他	5,274	5,359
無形固定資産合計	346,860	320,098
投資その他の資産		
投資有価証券	277,443	478,722
関係会社出資金	5,357	5,357
関係会社長期貸付金	82,000	108,000
破産更生債権等	—	37,515
敷金及び保証金	159,801	154,805
繰延税金資産	104,300	103,918
その他	13,728	15,698
貸倒引当金	△48,548	△131,939
投資その他の資産合計	594,083	772,079
固定資産合計	2,832,207	2,968,707
資産合計	11,539,769	11,757,204

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年2月28日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	100,000	—
未払金	1,818,472	1,577,864
未払費用	39,065	15,345
未払法人税等	764,383	673,189
未払消費税等	340,989	308,768
預り金	90,850	85,688
賞与引当金	87,888	47,345
役員賞与引当金	14,330	—
その他	18,313	11,813
流動負債合計	3,274,294	2,720,017
固定負債		
役員退職慰労引当金	82,797	83,540
退職給付に係る負債	33,413	34,666
資産除去債務	24,143	24,289
その他	36,544	34,081
固定負債合計	176,897	176,577
負債合計	3,451,192	2,896,594
純資産の部		
株主資本		
資本金	737,815	737,815
資本剰余金	609,788	609,788
利益剰余金	6,718,635	7,483,644
自己株式	△164	△164
株主資本合計	8,066,075	8,831,084
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	367	1,255
その他の包括利益累計額合計	367	1,255
非支配株主持分	22,134	28,270
純資産合計	8,088,577	8,860,610
負債純資産合計	11,539,769	11,757,204

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)
売上高	14,086,543	15,060,919
売上原価	10,511,622	11,512,083
売上総利益	3,574,921	3,548,835
販売費及び一般管理費	2,059,769	2,022,967
営業利益	1,515,152	1,525,868
営業外収益		
受取利息	529	464
受取配当金	633	1,107
有価証券利息	524	1,081
受取地代家賃	2,040	2,040
受取保険金	3,083	41
雑収入	598	2,475
営業外収益合計	7,407	7,210
営業外費用		
支払利息	1,359	801
債権売却損	10	—
貸倒引当金繰入額	—	45,874
雑損失	184	151
営業外費用合計	1,554	46,827
経常利益	1,521,005	1,486,251
特別損失		
固定資産除却損	668	—
ゴルフ会員権評価損	1,400	—
特別損失合計	2,068	—
税金等調整前四半期純利益	1,518,937	1,486,251
法人税等	629,166	589,810
四半期純利益	889,770	896,440
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,238	6,136
親会社株主に帰属する四半期純利益	893,009	890,304

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)
四半期純利益	889,770	896,440
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	142	887
その他の包括利益合計	142	887
四半期包括利益	889,913	897,328
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	893,151	891,191
非支配株主に係る四半期包括利益	△3,238	6,136

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,518,937	1,486,251
減価償却費	29,287	28,498
のれん償却額	23,861	23,861
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	1,374	1,253
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	3,999	743
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△13,700	△14,330
賞与引当金の増減額(△は減少)	△28,744	△40,542
貸倒引当金の増減額(△は減少)	—	83,390
受取利息及び受取配当金	△1,686	△2,653
支払利息	1,359	801
ゴルフ会員権評価損	1,400	—
固定資産除却損	668	—
売上債権の増減額(△は増加)	△17,255	327,945
営業債務の増減額(△は減少)	△199,033	△214,872
未払費用の増減額(△は減少)	△16,848	△23,720
未払消費税等の増減額(△は減少)	△281,543	△32,220
未払法人税等の増減額(△は減少)	387	23,053
前受金の増減額(△は減少)	△14,629	△9,715
その他	△171,482	△120,674
小計	836,351	1,517,069
利息及び配当金の受取額	2,013	2,383
利息の支払額	△1,359	△801
法人税等の支払額	△594,407	△704,515
営業活動によるキャッシュ・フロー	242,598	814,135
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の償還による収入	100,000	—
投資有価証券の取得による支出	—	△200,000
有形固定資産の取得による支出	△14,936	△13,534
無形固定資産の取得による支出	△4,212	△8,079
関係会社株式の取得による支出	△30,003	—
関係会社貸付けによる支出	—	△26,000
敷金及び保証金の差入による支出	△27,061	△6,490
敷金及び保証金の返還による収入	8,814	7,289
投資活動によるキャッシュ・フロー	32,601	△246,815
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	△100,000
配当金の支払額	△102,954	△125,267
財務活動によるキャッシュ・フロー	△102,954	△225,267
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	172,244	342,052
現金及び現金同等物の期首残高	3,922,822	4,910,903
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,095,067	5,252,956

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自平成27年9月1日至平成28年2月29日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)2	合計	調整額 (注)3	四半期連結 損益計算書 計上額
	アウトソー シング事業	人材派遣 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	9,870,291	4,125,795	13,996,086	90,457	14,086,543	—	14,086,543
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	10,574	10,574	—	10,574	△10,574	—
計	9,870,291	4,136,369	14,006,660	90,457	14,097,117	△10,574	14,086,543
セグメント利益(注)1	1,375,399	141,247	1,516,646	7,697	1,524,343	△9,191	1,515,152

(注) 1 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、社会福祉サービス、教育研修等を含んでおります。

3 セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社資産にかかる減価償却費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年9月1日 至 平成29年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期連結 損益計算書 計上額
	アウトソー シング事業	人材派遣 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	10,605,509	4,362,389	14,967,899	93,019	15,060,919	—	15,060,919
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	31,269	31,269	—	31,269	△31,269	—
計	10,605,509	4,393,659	14,999,169	93,019	15,092,188	△31,269	15,060,919
セグメント利益 (注) 1	1,314,108	215,321	1,529,429	5,763	1,535,193	△9,324	1,525,868

(注) 1 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、社会福祉サービス、教育研修等を含んでおります。

3 セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社資産にかかる減価償却費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。